



原子力規制委員会 殿

住所 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駮字沖付4番地108

名称及び代表者の氏名

日本原燃株式会社

代表取締役社長 社長執行役員 増田 尚宏

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び核燃料物質の加工の事業に関する規則第10条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	濃縮・埋設事業所
	所 在 地	青森県上北郡六ヶ所村大字尾駮

## 1 放射性廃棄物の廃棄の状況

## (1) 気体状の放射性廃棄物に含まれる放射性物質の濃度

## ① 放射性物質の種類別の濃度の3月間についての平均値

(単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

測定の箇所等		種 類	前半の3月間 (10月~12月)	後半の3月間 (1月~3月)
			U	U
排気口又は 排気監視設備	排気口		ND (注1)	ND (注1)
		濃度管理目標値	$2 \times 10^{-8}$	$2 \times 10^{-8}$

なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。検出限界濃度は以下のとおり。

(注1) 検出限界濃度は、 $2 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下である。

## ② 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

測定の箇所		濃 度	前半の3月間 (10月~12月)		後半の3月間 (1月~3月)	
			平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は 排気監視設備	排気口		ND (注1)	ND (注1)	ND (注1)	ND (注1)

なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。検出限界濃度は以下のとおり。

(注1) 検出限界濃度は $2 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下である。

(2) 液体状の放射性廃棄物の放射性物質の濃度

① 放射性物質の種類別の濃度の3月間についての平均値

(単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

種類 測定の箇所等		前半の3月間(10月~12月)		後半の3月間(1月~3月)	
		U		U	
排水口又は 排水監視設備	処理水ピット	放出実績なし		ND(注2)	
		濃度管理目標値		1 × 10 <sup>-3</sup>	

なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。検出限界濃度は以下のとおり。

(注2) 検出限界濃度は、1 × 10<sup>-4</sup> (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下である。

② 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

濃度 測定の箇所		前半の3月間(10月~12月)		後半の3月間(1月~3月)	
		平均値	最高値	平均値	最高値
排水口又は 排水監視設備	処理水ピット	放出実績なし	放出実績なし	ND(注2)	ND(注2)

なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。検出限界濃度は以下のとおり。

(注2) 検出限界濃度は1 × 10<sup>-4</sup> (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下である。

(3) 気体状、液体状及び固体状の放射性廃棄物の保管量等

放射性廃棄物の種類 量	気体廃棄物
	80kgボンベ換算(本)※
前年度末保管量	0本
当該年度の発生量	0本
当該年度の減少量	0本
施設内減量	0本
施設外減量	0本
当該年度末保管量	0本
保管設備容量	27本

※カスケード設備の付着ウラン回収に伴い発生する廃棄物

放射性廃棄物の種類 量	低レベル液体廃棄物 (m <sup>3</sup> )				
	20ℓドラム缶	その他の種類	20ℓドラム缶換算合計	80kgポンベ換算※	合計
前年度末保管量	32本	0本相当	32本相当 (0.64m <sup>3</sup> )	61本 (1.53m <sup>3</sup> )	2.17m <sup>3</sup>
当該年度の発生量	0本	0本相当	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0.00m <sup>3</sup>
当該年度の減少量	0本	0本相当	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0.00m <sup>3</sup>
施設内減量	0本	0本相当	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0.00m <sup>3</sup>
施設外減量	0本	0本相当	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0本相当 (0.00m <sup>3</sup> )	0.00m <sup>3</sup>
当該年度末保管量	32本	0本相当	32本相当 (0.64m <sup>3</sup> )	61本 (1.53m <sup>3</sup> )	2.17m <sup>3</sup>
保管設備容量	—	—	160本相当 (3.20m <sup>3</sup> )	116本 (2.90m <sup>3</sup> )	6.10m <sup>3</sup>

※カスケード設備の付着ウラン回収に伴い発生する廃棄物

放射性廃棄物の種類 量	低レベル固体廃棄物			
	ドラム缶(本)	20ℓドラム缶(本)* <sup>1</sup>	その他(本相当)	200ℓドラム缶換算合計
前年度末保管量	10,637本	376本	2,856本相当	13,540本相当
当該年度の発生量	13本	0本	1,652本相当	1,665本相当
当該年度の減少量	0本	0本	0本相当	0本相当
施設内減量	0本	0本	0本相当	0本相当
施設外減量	0本	0本	0本相当	0本相当
当該年度末保管量	10,650本	376本	4,508本相当	15,205本相当
保管設備容量	16,900本相当			

\* 1：スラッジは、20ℓドラム缶に封入し保管廃棄している。

200ℓドラム缶への換算方法は、8本あたり1本分とし、端数については切り上げる。

放射性廃棄物の種類 量	低レベル固体廃棄物
	使用済遠心機* <sup>2</sup>
前年度末保管量	7.5 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
当該年度の発生量	7.5 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
当該年度の減少量	0 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
施設内減量	0 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
施設外減量	0 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
当該年度末保管量	15.0 tSWU/y相当分の金属銅遠心機
保管設備容量	63.0 tSWU/y相当分の金属銅遠心機

\* 2：数量は遠心分離機の分離作業能力換算数で表す。

2 放射線業務従事者の線量分布

(1) 放射線業務従事者の1年間の線量分布

線量 放射線 業務従事者	線量分布 (人)				
	0.1mSv 以下	0.1mSv を超え 1mSv 以下	1mSv を超え 2mSv 以下	2mSv を超え 5mSv 以下	5mSv を超え 10mSv 以下
職員	223	2	0	0	0
その他	1196	0	0	0	0
合計	1419	2	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布 (人)				
	10mSv を超え 15mSv 以下	15mSv を超え 20mSv 以下	20mSv を超え 25mSv 以下	25mSv を超え 30mSv 以下	30mSv を超え 35mSv 以下
職員	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布 (人)				
	35mSv を超え 40mSv 以下	40mSv を超え 45mSv 以下	45mSv を超え 50mSv 以下	50mSv を 超えるもの	合計
職員	0	0	0	0	225
その他	0	0	0	0	1196
合計	0	0	0	0	1421

線量 放射線 業務従事者	総線量 (人・Sv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)
職員	0.00	0.0	0.17
その他	0.00	0.0	0.03
合計	0.00	0.0	

(2) 女子（妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を加工事業者に書面で申し出た者を除く。）の放射線業務従事者の3月間の線量分布

放射線業務従事者		線量	線量分布（人）			
			0.1mSv以下	0.1mSvを超え 1mSv以下	1mSvを超え 2mSv以下	2mSvを超え 5mSv以下
前半の3月間 (10月～12月)	職員	7	0	0	0	
	その他	6	0	0	0	
	合計	13	0	0	0	
後半の3月間 (1月～3月)	職員	6	0	0	0	
	その他	7	0	0	0	
	合計	13	0	0	0	

放射線業務従事者		線量	線量分布（人）		総線量 (人・Sv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)
			5mSvを 超えるもの	合計			
前半の3月間 (10月～12月)	職員	0	7	0.00	0.0	0.01	
	その他	0	6	0.00	0.0	0.00	
	合計	0	13	0.00	0.0		
後半の3月間 (1月～3月)	職員	0	6	0.00	0.0	0.00	
	その他	0	7	0.00	0.0	0.00	
	合計	0	13	0.00	0.0		